

続高僧伝資料対照表

	興聖寺本(649撰)	法苑珠林(668撰) 開元録(730撰) 一切経音義(807撰)	大蔵経綱目指要録 (1104撰)	新集蔵経音義随函録 (940撰)	高麗本(1243刊)	宋(元)本(12c刊)	明清本	大正蔵 本	
	本伝 390 人		本伝 395 人	本伝 406 人	本伝 414 人	本伝 485 人			
卷一	序6人		6	6	6	卷一 6	卷一	卷一	訳経
卷二	4		4	4	4	卷二 4	卷二	卷二	
卷三	3		3	3	3	卷三 3	卷三	卷三	
卷四	1 貞観末までの玄奘伝のみ。現行のものとはかなり異なる。	開元録は現行の玄奘録を見ている。那提伝は同文。一切経音義は現行の巻四と同じ	2	2	2	卷四 2	卷四 卷五	卷四	義解
卷五	12		12	12	12	卷五 12	卷六	卷五	
卷六	21		21	21	21	卷六 21	卷七 卷八	卷六	
卷七	10		10	10	10	卷七 10	卷九	卷七	
卷八	14		14	14	14	卷八 14	卷一〇	卷八	
卷九	10	一切経音義に宝海・智方・羅雲に対する注あり	14 宝海・明方・羅雲・法安の伝が増す	14	14	卷九 14	卷一一	卷九	
卷一〇	17		17	17	17	卷一〇 17	卷一二	卷一〇	
卷一一	12		12	12	12	卷一一 12	卷一三	卷一一	
卷一二	15		15	15	15	卷一二 15	卷一四	卷一二	
卷一三	12		12	17 功迥・神照・法護・玄統・慧璧の伝が増す	17	卷一三 17	卷一五	卷一三	
卷一四	14		14		14	卷一四 14	卷一六	卷一四	
卷一五	14 論		14	15 義襲の伝が増す	15	卷一五 15	卷一七 卷一八	卷一五	

続高僧伝資料対照表

	興聖寺本(649撰)	法苑珠林(668撰) 開元録(730撰) 一切経音義(807撰)	大蔵経綱目指要録 (1104撰)	新集蔵経音義随函録 (940撰)	高麗本(1243刊)	宋(元)本(12c刊)	明清本	大正蔵 本	
	本伝 390 人		本伝 395 人	本伝 406 人	本伝 414 人	本伝 485 人			
卷一六	18 法聡伝は麗本と同じく短い	法聡伝は珠林・興本・麗本ともに短い	18	23 法常・法京・法懐・恵成・法忍の伝が増す	23	卷一六 23 法聡伝が増広される	卷一九 卷二〇	卷一六	習禪
卷一七	10		10	10	11 慧実の伝が増す	卷一七 11	卷二一	卷一七	
卷一八	13		13	13	13	卷一八 13	卷二二	卷一八	
卷一九	14		14	14	14	卷一九 14	卷二三	卷一九	
卷二〇	14 論		14	14	14	卷二〇 14 (宋本論)	卷二四	卷二〇	
						卷二一 20 (宋本論)道信・法融など20人の伝が増す	卷二五 卷二六		
卷二一	13		13	13	15 慧主・慧説の伝が増す	卷二二 15	卷二七	卷二一	明律
卷二二	9 論		9	9	9	卷二三 13 道胄・道興・明導・曇光の伝が増す	卷二八 卷二九	卷二二	
卷二三	6		6	6	6	卷二四 8 道臻・智炫の伝が増す	卷三〇	卷二三	護法
卷二四	5 論		5	5	5	卷二五 10 曇選・法通・弘智・道会・智勤の伝が増す	卷三一 卷三二	卷二四	

続高僧伝資料対照表

	興聖寺本(649撰)	法苑珠林(668撰) 開元録(730撰) 一切経音義(807撰)	大蔵経綱目指要録 (1104撰)	新集蔵経音義随函録 (940撰)	高麗本(1243刊)	宋(元)本(12c刊)	明清本	大正蔵 本		
	本伝 390 人		本伝 395 人	本伝 406 人	本伝 414 人	本伝 485 人				
卷二五	33 道仙伝は宮本と 同じく短い	道仙伝は珠林・興本と もに短い	33	33	33	卷二六	34 明琛の 伝が増す	卷三三 卷三四	卷二五	感通
						卷二七	39 三十九 人の伝が増 す 法冲伝	卷三五		
卷二六	45 論		45	45	45	卷二八	45	卷三六	卷二六	
卷二七	10 論/僧崖伝は宮 本と同じく短い。法 曠伝は麗本と同じ	僧崖伝は珠林・興本と もに短い	10	10	12 法凝・紹闍梨 の伝が増す	卷二九	12	卷三七	卷二七	遺身
卷二八	11 論		11	11	14 法建・慧恭・法 泰の伝が増す		14	卷三八	卷二八	読誦
卷二九	12 論		12	12	12	卷三〇	12	卷三九	卷二九	興福
卷三〇	13 論		12	12	12	卷三一	12	卷四〇	卷三〇	雑科声徳